

医学研究科

目 次

I－I．教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	1
I－II．医学研究科について ……	2
I－III．行事予定 ……	3
I－IV．授業科目一覧 ……	4
I－V．カリキュラムマップ ……	8
I－VI．指導教員一覧 ……	9
I－VII．履修の手引き ……	13
(1) 単位 ……	14・18
(2) 科目 ……	14・18
(3) 修了要件 ……	15・19
(4) 履修モデル ……	16・20
(5) 履修登録 ……	22
(6) 講義 ……	22
(7) 成績 ……	23
(8) GPA 制度 ……	23
(9) 成績評価に対する質問・異議申出 ……	23
I－VIII．学位授与 ……	24
I－IX．学位申請 ……	24
I－X．その他 ……	26
I－XI．時間割表（必修・共通科目） ……	27

I. 教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

*教育目的

医学研究科は、建学の精神に則り、高い研究能力を持つ医学系研究者の養成、および優れた研究・診療能力を備えた医療系人材の養成を目的とする。

*ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

医学研究科は、現場の視点を持った臨床研究または臨床を理解した基礎研究ができる高い研究能力を持つ医学研究者の養成、研究マインドや優れた診療能力を備えた医療系人材の養成を目指している

以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格したものに対して学位を授与する。

1. 医学における基礎的および臨床的課題を深く研究し、国際的評価の高い結果を生み出し、医学の発展に貢献する。
2. 臨床経験を積み重ねながら医療・福祉の現場における実際の・実践的課題を見出し、それを深く追究し、科学的判断力、倫理観に基づいて解決する方法を提案あるいは実践できる。その結果について国内外の評価をうける方法を学び、実践できる。
3. 専門的あるいは最先端の知識・技術を深く広く修得し診療に役立て、患者の健康と福祉に貢献することができる。
4. 一定以上の水準の学位論文を作成し、国際的標準の研究結果が発表できる。

*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、医学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 各分野において、医学の進歩や社会の変化に対応した科目を編成する。
2. 問題解決や論文作成に必要な計画性および論理的思考を身につけ、医療倫理や科学的知識・統計的手法などの幅広い分野で基礎的能力を育てるために必修科目Ⅰを編成する。
3. 高度かつ徹底した専門的教育を目的とした専門科目（主科目）を行うとともに、研究・論文作成・学位取得のための必修科目Ⅱ（特殊研究）を編成する。
4. 専門科目（主科目）領域に関わらず様々な分野に視野を広げるために、幅広い分野にわたる専門科目（副科目）および共通科目の選択を可能とする。
5. 上記1～4のカリキュラムにおいては専門医研修プログラムと協調を図る。

Ⅱ. 医学研究科について

本学医学研究科では、建学の精神である「国際性、創造性、専門性、実学」に則り、高い研究能力をもつ医学系研究者を育成すること、および将来臨床医を志す者に対しては、日々の診療の糧となるよう、問題点を的確に把握し合理的に解決する能力を獲得させることを目的としています。すなわち、細胞培養・遺伝子解析などを始めとする、各領域で研究に必要な技術の習得に加え、適切な臨床研究計画の立案実施能力養成に重点を置いています。

そのため、大学院でまずおこなっていただきたいことは、医学研究において遵守すべき倫理を会得することです。特にヒトを対象とする臨床研究においては、被験者の尊厳及び人権を守るとともに研究者が円滑に研究を進められるよう、倫理指針が定められています。これらは、e-learning (eLCoRE) で身につけることが義務づけられており、容易に学ぶことができます。次いで、研究テーマを決めてください。4年間は短い時間です。“そのうちに”と思っていると、あっという間に過ぎてしまいます。満期退学してから博士号を取得することも可能ですが、在学中に論文を提出し審査を受けることが原則です。なるべく早く決めてください。

テーマが決まったら研究計画の立案です。これが最も重要な部分で、十分に時間をかける必要があります。方法に問題があれば、いくら膨大なエネルギーを費やそうと、得られた結果が意味をなしません。事前の十分な検討が重要です。統計解析についても十分な理解と計画が重要となります。迷った場合はTARC（臨床研究センター）や学内の医療統計専門家などに積極的に相談してください。

教員はこれらの作業の手伝いをします。しかし、中心はあくまで学生です。自分で考え、自分から行動を起こしてください。そうすることで初めて研究の面白みが理解でき、問題点を的確に把握し合理的に解決する能力が養われると考えます。有意義かつ思い出に残る4年間を過ごせるよう祈っています。

医学研究科長 園生雅弘

Ⅲ. 2022 年度 行事予定

【前期】

健康診断	2022 年 4 月上旬
入学式	4 月 4 日 (月)
全体ガイダンス	4 月 9 日 (土)
履修科目登録期限	4 月 22 日 (金)
前期授業開始	4 月中旬予定
学位論文中間発表会	7 月 1 日 (金)、2 日 (土)
創立記念日	6 月 29 日 (水)

【後期】

後期授業開始	2022 年 10 月 1 日 (土)
大学院教育に関する ワークショップ	11 月 19 日 (土) ※必修科目「医学研究特論」
医学教育に関する ワークショップ	12 月 3 日 (土) ※必修科目「医学研究特論」
論文提出最終〆切 (修了年次生)	11 月 11 日 (金) 16 : 45 まで ※最終〆切、期日厳守
修了式・学位記授与式 (修了年次生)	2023 年 3 月予定

※日程は諸事情により変更となる場合があります。

※早期修了希望者は 3 年次で学位論文中間発表を行ってください。

※学位申請する者は論文提出最終締切日までに、論文審査に必要な書類をすべて揃え、
事務部教務課窓口取扱時間内に提出すること。

Ⅳ. 授業科目一覧

・主科目・副科目(全学年共通)

※主科目責任者は都合により変更となる場合があります

No.	科目 区分	Code	主・副科目名	主科目責任者			開講		
				教員名	所属		板橋	ちば	溝口
1	構造機能医学 (1)	M6101	細胞組織学Ⅰ	竹田	板橋	解剖	○		
2		M6102	細胞組織学Ⅱ						
3		M6103	細胞組織学Ⅲ						
4		M6104	脳神経科学Ⅰ	林	板橋	生理	○		
5		M6105	脳神経外科学Ⅱ						
6		M6106	脳神経科学Ⅲ						
7		M6107	生化学/臨床医科学Ⅰ	安達 月田	板橋	生化 戦略	○		
8		M6108	生化学/臨床医科学Ⅱ						
9		M6109	生化学/臨床医科学Ⅲ						
10		M6110	生命物質化学Ⅰ	大胡	板橋	医療共通	○		
11		M6111	生命物質化学Ⅱ						
12		M6112	生命物質化学Ⅲ						
13	基礎病態学 (2)	M6201	人体病理学・病理診断学Ⅰ	宇於崎 山崎 高橋	板橋 ちば 溝口	病理	○	○	○
14		M6202	人体病理学・病理診断学Ⅱ						
15		M6203	人体病理学・病理診断学Ⅲ						
16		M6204	神経薬理学Ⅰ	青山	板橋	薬理	○		
17		M6205	神経薬理学Ⅱ						
18		M6206	神経薬理学Ⅲ						
19		M6207	感染免疫病態制御学Ⅰ	吉野	板橋	微生物	○		
20		M6208	感染免疫病態制御学Ⅱ						
21		M6209	感染免疫病態制御学Ⅲ						
22		M6210	医真菌学Ⅰ	槇村	板橋	医真菌	○		
23		M6211	医真菌学Ⅱ						
24		M6212	医真菌学Ⅲ						
25		M6213	宇宙環境医学Ⅰ	槇村	板橋	医真菌	○		
26		M6214	宇宙環境医学Ⅱ						
27		M6215	宇宙環境医学Ⅲ						
28		M6216	移植免疫学・腫瘍免疫学Ⅰ	下川	板橋	心外	○		
29		M6217	移植免疫学・腫瘍免疫学Ⅱ						
30		M6218	移植免疫学・腫瘍免疫学Ⅲ						
31		M6219	国際感染症・危機管理学Ⅰ	河内	板橋	医療共通	○		
32		M6220	国際感染症・危機管理学Ⅱ						
33		M6221	国際感染症・危機管理学Ⅲ						
34	社会保健医学 (3)	M6301	公衆衛生医学Ⅰ	大久保	板橋	公衆衛生	○		
35		M6302	公衆衛生医学Ⅱ						
36		M6303	公衆衛生医学Ⅲ						
37		M6304	法医学Ⅰ	野上	板橋	法医	○		
38		M6305	法医学Ⅱ						
39		M6306	法医学Ⅲ						
40		M6307	地域医療学Ⅰ	井上	ちば	地域医療		○	
41		M6308	地域医療学Ⅱ						
42		M6309	地域医療学Ⅲ						
43		M6310	臨床試験学Ⅰ	深川	板橋	外科	○		
44		M6311	臨床試験学Ⅱ						
45		M6312	臨床試験学Ⅲ						
46	器官系統病態学 内科系(4)	M6401	内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅰ	石川	板橋	内科	○		
47		M6402	内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅱ						
48		M6403	内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅲ						
49		M6404	免疫・代謝学Ⅰ	河野	板橋	内科	○		
50		M6405	免疫・代謝学Ⅱ						
51		M6406	免疫・代謝学Ⅲ						
52		M6407	内分泌・代謝学Ⅰ	井上	ちば	三内		○	
53		M6408	内分泌・代謝学Ⅱ						
54		M6409	内分泌・代謝学Ⅲ						
55		M6410	代謝・糖尿病学Ⅰ	原	溝口	四内			○
56		M6411	代謝・糖尿病学Ⅱ						
57		M6412	代謝・糖尿病学Ⅲ						
58		M6413	腎臓病学Ⅰ	柴田 寺脇 河原崎	板橋 ちば 溝口	内科 三内 四内	○	○	○
59		M6414	腎臓病学Ⅱ						
60		M6415	腎臓病学Ⅲ						
61		M6416	血液内科学Ⅰ	田代	板橋	内科	○		
62		M6417	血液内科学Ⅱ						
63		M6418	血液内科学Ⅲ						

【Codeの表記方法】

M:研究科・専攻 6:課程レベル 数字1桁目:科目区分 2・3桁目:整理番号

No.	科目 区分	Code	主・副科目名	主科目責任者			開講		
				教員名	所属		板橋	ちば	溝口
64	器官系統病態学 内科系（4）	M6419	血液腫瘍学Ⅰ	山口 佐藤	ちば 溝口	三内 四内		○	○
65		M6420	血液腫瘍学Ⅱ						
66		M6421	血液腫瘍学Ⅲ	山本 小尾	板橋 ちば	内科 三内	○	○	
67		M6422	消化管内科学Ⅰ						
68		M6423	消化管内科学Ⅱ						
69		M6424	消化管内科学Ⅲ	田中	板橋	内科	○		
70		M6425	消化器肝臓内科学Ⅰ						
71		M6426	消化器肝臓内科学Ⅱ						
72		M6427	消化器肝臓内科学Ⅲ	土井	溝口	消内			○
73		M6428	消化器内視鏡学Ⅰ						
74		M6429	消化器内視鏡学Ⅱ						
75		M6430	消化器内視鏡学Ⅲ	菊池	溝口	4内			○
76		M6431	肝臓免疫代謝学Ⅰ						
77		M6432	肝臓免疫代謝学Ⅱ						
78		M6433	肝臓免疫代謝学Ⅲ	長瀬	板橋	内科	○		
79		M6434	呼吸器・アレルギー学Ⅰ						
80		M6435	呼吸器・アレルギー学Ⅱ						
81		M6436	呼吸器・アレルギー学Ⅲ	山口	ちば	3内		○	
82		M6437	呼吸器病態生理学Ⅰ						
83		M6438	呼吸器病態生理学Ⅱ						
84		M6439	呼吸器病態生理学Ⅲ	幸山	溝口	4内			○
85		M6440	呼吸器内科学Ⅰ						
86		M6441	呼吸器内科学Ⅱ						
87		M6442	呼吸器内科学Ⅲ	北沢	板橋	内科	○		
88		M6443	生体防御感染症学Ⅰ						
89		M6444	生体防御感染症学Ⅱ						
90		M6445	生体防御感染症学Ⅲ	上妻	板橋	内科	○		
91		M6446	循環器内科学Ⅰ						
92		M6447	循環器内科学Ⅱ						
93		M6448	循環器内科学Ⅲ	中村 速水	ちば 溝口	三内 四内		○	○
94		M6449	循環器病学Ⅰ						
95		M6450	循環器病学Ⅱ						
96		M6451	循環器病学Ⅲ	園生 作石	板橋 ちば	神内	○	○	
97		M6452	神経学Ⅰ						
98		M6453	神経学Ⅱ						
99		M6454	神経学Ⅲ	三牧 井田	板橋 溝口	小児	○		○
100		M6455	小児科学Ⅰ						
101		M6456	小児科学Ⅱ						
102		M6457	小児科学Ⅲ	原	溝口	4内			○
103		M6458	内科学総合Ⅰ						
104		M6459	内科学総合Ⅱ						
105		M6460	内科学総合Ⅲ	三牧	板橋	小児	○		
106		M6461	新生児学Ⅰ						
107		M6462	新生児学Ⅱ						
108		M6463	新生児学Ⅲ	多田 佐藤	板橋 ちば	皮膚	○	○	
109		M6464	皮膚科学Ⅰ						
110		M6465	皮膚科学						
111		M6466	皮膚科学	近藤 多湖	板橋 溝口	放射	○		○
112		M6467	放射線診断学・放射線腫瘍学						
113		M6468	放射線診断学・放射線腫瘍学						
114		M6469	放射線診断学・放射線腫瘍学	川村	板橋	外科	○		
115	器官系統病態学 外科系（5）	M6501	外科学総合Ⅰ						
116		M6502	外科学総合Ⅱ						
117		M6503	外科学総合Ⅲ	神野	板橋	外科	○		
118		M6504	乳腺腫瘍学Ⅰ						
119		M6505	乳腺腫瘍学Ⅱ						
120		M6506	乳腺腫瘍学Ⅲ	佐野	板橋	外科	○		
121		M6507	肝胆膵・移植外科学Ⅰ						
122		M6508	肝胆膵・移植外科学Ⅱ						
123		M6509	肝胆膵・移植外科学Ⅲ	川村	板橋	外科	○		
124		M6510	小児外科学Ⅰ						
125		M6511	小児外科学Ⅱ						
126		M6512	小児外科学Ⅲ	深川 首藤	板橋 ちば	外科	○	○	
127		M6513	上部消化管外科学Ⅰ						
128		M6514	上部消化管外科学Ⅱ						
129		M6515	上部消化管外科学Ⅲ						

【Codeの表記方法】

M: 研究科・専攻 6: 課程レベル 数字1桁目: 科目区分 2・3桁目: 整理番号

No.	科目 区分	Code	主・副科目名	主科目責任者			開講		
				教員名	所属		板橋	ちば	溝口
130	器官系統病態学 外科系（5）	M6516	下部消化管外科学Ⅰ	橋口 幸田	板橋 ちば	外科	○	○	
131		M6517	下部消化管外科学Ⅱ						
132		M6518	下部消化管外科学Ⅲ						
133		M6519	内視鏡外科学Ⅰ	小林	溝口	外科			○
134		M6520	内視鏡外科学Ⅱ						
135		M6521	内視鏡外科学Ⅲ						
136		M6522	呼吸器外科学Ⅰ	川村	板橋	外科	○		
137		M6523	呼吸器外科学Ⅱ						
138		M6524	呼吸器外科学Ⅲ						
139		M6525	心臓血管外科学Ⅰ	下川 宮城	板橋	心外	○	○	
140		M6526	心臓血管外科学Ⅱ						
141		M6527	心臓血管外科学Ⅲ						
142		M6528	運動器再建・再生学Ⅰ	河野 村田 安井	板橋 ちば 溝口	整形	○	○	○
143		M6529	運動器再建・再生学Ⅱ						
144		M6530	運動器再建・再生学Ⅲ						
145		M6531	産婦人科学Ⅰ	長阪	板橋	産婦	○		
146		M6532	産婦人科学Ⅱ						
147		M6533	産婦人科学Ⅲ						
148		M6534	脳神経外科学Ⅰ	辛	板橋	脳外	○		
149		M6535	脳神経外科学Ⅱ						
150		M6536	脳神経外科学Ⅲ						
151		M6537	耳鼻咽喉科学Ⅰ	伊藤 鈴木	板橋 ちば	耳鼻	○	○	
152		M6538	耳鼻咽喉科学Ⅱ						
153		M6539	耳鼻咽喉科学Ⅲ						
154		M6540	視覚病態学Ⅰ	溝田	板橋	眼科	○		
155		M6541	視覚病態学Ⅱ						
156		M6542	視覚病態学Ⅲ						
157		M6543	泌尿器外科学Ⅰ	中川 納谷 石坂	板橋 ちば 溝口	泌尿器	○	○	○
158		M6544	泌尿器外科学Ⅱ						
159		M6545	泌尿器外科学Ⅲ						
160		M6546	形成・口腔顎顔面外科学Ⅰ	小室	板橋	形成	○		
161		M6547	形成・口腔顎顔面外科学Ⅱ						
162		M6548	形成・口腔顎顔面外科学Ⅲ						
163	総合病態診療学（6）	M6601	精神神経科学Ⅰ	功刀	板橋	精神	○		
164		M6602	精神神経科学Ⅱ						
165		M6603	精神神経科学Ⅲ						
166		M6604	リハビリテーション医学Ⅰ	緒方 田中 原	板橋 ちば 溝口	リハビリ	○	○	
167		M6605	リハビリテーション医学Ⅱ						
168		M6606	リハビリテーション医学Ⅲ						
169		M6607	臨床検査医学Ⅰ	古川	板橋	臨床検査	○		
170		M6608	臨床検査医学Ⅱ						
171		M6609	臨床検査医学Ⅲ						
172		M6610	東洋医学Ⅰ	下川	板橋	心外	○		
173		M6611	東洋医学Ⅱ						
174		M6612	東洋医学Ⅲ						
175		M6613	麻酔科学Ⅰ	澤村 田垣内 丸山	板橋 ちば 溝口	麻酔	○	○	○
176		M6614	麻酔科学Ⅱ						
177		M6615	麻酔科学Ⅲ						
178		M6616	疼痛科学Ⅰ	青江	ちば	ペイン		○	
179		M6617	疼痛科学Ⅱ						
180		M6618	疼痛科学Ⅲ						
181		M6619	救急災害医学Ⅰ	森村	板橋	救急	○		
182		M6620	救急災害医学Ⅱ						
183		M6621	救急災害医学Ⅲ						
184		M6622	集中治療医学Ⅰ	志賀	ちば	集中治療		○	
185		M6623	集中治療医学Ⅱ						
186		M6624	集中治療医学Ⅲ						
187	がん専門医養成コース （7）	M6701	臨床腫瘍学Ⅰ	関	板橋	内科	○		
188		M6702	臨床腫瘍学Ⅱ						
189		M6703	臨床腫瘍学Ⅲ						
190		M6704	緩和医療学Ⅰ	有賀	板橋	内科	○		
191		M6705	緩和医療学ⅡⅡ						
192		M6706	緩和医療学ⅢⅢ						
193		M6707	外科・手技Ⅰ	佐野	板橋	外科	○		
194		M6708	外科・手技Ⅱ						
195		M6709	外科・手技Ⅲ						

【Codeの表記方法】

M:研究科・専攻 6:課程レベル 数字1桁目:科目区分 2・3桁目:整理番号

・必修科目

※科目責任者は都合により変更となる場合があります

No.	科目 区分	Code	科目名称	科目責任者		
				教員名	所属	
1	必修科目 (8)	M6801	(必修Ⅰ)臨床疫学	大久保	板橋	公衆衛生
2		M6802	(必修Ⅰ)臨床統計学	宮田	板橋	公研究科
3		M6803	(必修Ⅰ)研究倫理 ※2022・2021年度生	園生	板橋	研究科長
4		M6804	(必修Ⅰ)医学研究特論	園生	板橋	研究科長
5		M6805	(必修Ⅱ)特殊研究	園生	板橋	研究科長

・共通科目

No.	科目 区分	Code	科目名称	科目責任者			開講	年度			
				教員名	所属			2022	2023	2024	2025
1	共通科目 (9)	M6901	実験医学序論 ※2019・2020年度生必修科目	園生	板橋	研究科長	毎年	○	○	○	○
2		M6902	病理診断学・法医学特論	笹島	板橋	病理	隔年	○	-	○	-
3		M6903	地域医療特論	井上	ちば	地域医療	隔年	○	-	○	-
4		M6904	医真菌学特論	楨村	板橋	医真菌	毎年	○	○	○	○
5		M6905	生命物質化学特論	大胡	板橋	医療共通	隔年	○	-	○	-
6		M6906	国際感染症・危機管理学特論	河内	板橋	医療共通	毎年	○	○	○	○
7		M6907	代謝医科学特論	安達	板橋	生化	隔年	-	○	-	○
8		M6908	感染症学特論	北沢	板橋	内科	隔年	-	○	-	○
9		M6909	循環器病学特論	速水	溝口	4内	隔年	○	-	○	-
10		M6910	呼吸器病学特論	長瀬	板橋	内科	隔年	-	○	-	○
11		M6911	血液内科学特論	田代	板橋	内科	隔年	○	-	○	-
12		M6912	消化器疾患特論	田中	板橋	内科	隔年	○	-	○	-
13		M6913	腫瘍内科学特論	関	板橋	内科	隔年	-	○	-	○
14		M6914	腫瘍治療学特論	神野	板橋	外科	隔年	○	-	○	-
15		M6915	緩和医療学特論	有賀	板橋	内科	毎年	○	○	○	○
16		M6916	インターベンション医学特論	近藤	板橋	放射	隔年	-	○	-	○
17		M6917	基礎・臨床神経科学特論	林	板橋	生理	隔年	○	-	○	-
18		M6918	小児科学特論	三牧	板橋	小児	隔年	-	○	-	○
19		M6919	精神医学・医療心理学特論	功刀	板橋	精神	隔年	○	-	○	-
20		M6920	外科学概論	深川	板橋	外科	隔年	-	○	-	○
21		M6921	周産期医学特論	梁	板橋	産婦	隔年	-	○	-	○
22		M6922	整形外科科学特論	河野	板橋	整形	隔年	-	○	-	○
23		M6923	形成・口腔顎顔面外科学特論	小室	板橋	形成	隔年	-	○	-	○
24		M6924	救急医学特論	森村	板橋	救急	毎年	○	○	○	○
25		M6925	医療倫理特論	坂本	板橋	救急	隔年	-	○	-	○
26		M6926	プライマリ特論	山田	溝口	精神	毎年	○	○	○	○

【Codeの表記方法】

M:研究科・専攻 6:課程レベル 数字1桁目:科目区分 2・3桁目:整理番号

V. カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、学位授与方針と開講科目との対応関係について一覧表にまとめたものです。

ディプロマポリシー(学位授与方針)								
医学研究科は、現場の視点を持った臨床研究または臨床を理解した基礎研究ができる高い研究能力を持つ医学研究者の養成、研究マインドや優れた診療能力を備えた医療系人材の養成を目指している 以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および試験に合格したものに対して学位を授与する。								
DP1	医学における基礎的および臨床的課題を深く研究し、国際的評価の高い結果を生み出し、医学の発展に貢献する。							
DP2	臨床経験を積み重ねながら医療・福祉の現場における実際の・実践的課題を見出し、それを深く追究し、科学的判断力、倫理観に基づいて解決する方法を提案あるいは実践できる。その結果について国内外の評価をうける方法を学び、実践できる。							
DP3	専門的あるいは最先端の知識・技術を深く広く修得し診療に役立て、患者の健康と福祉に貢献することができる。							
DP4	一定以上の水準の学位論文を作成し、国際的標準の研究結果が発表できる。							

区 分	主科目分野	配当年次	必・選	単位	DP1	DP2	DP3	DP4
主科目 (副科目)	構造機能医学	1・2・3	選択必修	各4	○		○	○
	基礎病態学	1・2・3	選択必修	各4	○		○	○
	社会保健医学	1・2・3	選択必修	各4	○		○	○
	器官系統病態学	1・2・3	選択必修	各4	○	○	○	○
	総合病態診療学	1・2・3	選択必修	各4	○	○	○	○
	がん専門医養成コース	1・2・3	選択必修	各4	○	○	○	○

区 分	科目名	配当年次	必・選	単位	DP1	DP2	DP3	DP4
必修科目Ⅰ	臨床疫学	1	必修	1	○		○	○
	臨床統計学	1	必修	1	○		○	○
	研究倫理 ※2021年度生より	1	必修	1	○		○	○
	医学研究特論	1～4	必修	1	○		○	○
必修科目Ⅱ	特殊研究	1～4	必修	8	○	○	○	○
共通科目	実験医学序論※2020・2019年度生必修	1	選択	1	○		○	
	病理診断学・法医学特論	1・2	選択	1		○	○	
	地域医療特論	1・2	選択	1		○	○	
	医真菌学特論	1	選択	1		○	○	
	生命物質化学特論	1・2	選択	1		○	○	
	国際感染症・危機管理学特論	1	選択	1		○	○	
	代謝医学特論	1・2	選択	1		○	○	
	感染症学特論	1・2	選択	1		○	○	
	循環器病学特論	1・2	選択	1		○	○	
	呼吸器病学特論	1・2	選択	1		○	○	
	血液内科学特論	1・2	選択	1		○	○	
	消化器疾患特論	1・2	選択	1		○	○	
	腫瘍内科学特論	1・2	選択	1		○	○	
	腫瘍治療学特論	1・2	選択	1		○	○	
	緩和医療学特論	1・2	選択	1		○	○	
	インターベンション医学特論	1・2	選択	1		○	○	
	基礎・臨床神経科学特論	1・2	選択	1		○	○	
	小児科学特論	1・2	選択	1		○	○	
	精神医学・医療心理学特論	1・2	選択	1		○	○	
	外科学概論	1・2	選択	1		○	○	
	周産期医学特論	1・2	選択	1		○	○	
	整形外科学特論	1・2	選択	1		○	○	
	形成・口腔顎顔面外科学特論	1・2	選択	1		○	○	
	救急医学特論	1	選択	1		○	○	
	医療倫理特論	1・2	選択	1		○	○	
	プライマリ特論	1	選択	2		○	○	

Ⅵ. 指導教員一覧

<基礎系>

所属	教員	専門分野	担当主科目
解剖学	教授 竹田 扇	解剖学	細胞組織学
生理学	教授 林 俊宏	神経生理学, 神経画像, 臨床神経学, 高次脳機能	脳神経科学
	准教授 大野 孝恵	神経生理学, 高次脳機能, 臨床神経学	脳神経科学
生化学	教授 安達 三美	分子生物学、循環器病学、細胞生物学、生化学、再生(特に心筋)、加齢医学	生化学/臨床医科学
	飯塚 眞由	生化学、分子腫瘍学、DNA複製、クロマチン	生化学/臨床医科学
病理学	教授 宇於崎 宏	消化管病理(特に胃)、人体病理学、エピジェネティクス(DNAメチル化、micro RNA)	人体病理学・病理診断学
	准教授 菊地 良直	人体病理学全般、骨軟部腫瘍、癌微小環境	人体病理学・病理診断学
薬理学	教授 青山 晃治	神経薬理学、神経内科学	神経薬理学
微生物学	教授 吉野 友祐	感染症学	感染免疫病態制御学
衛生学公衆衛生学 (公衆衛生学研究科)	教授	大久保孝義	公衆衛生学、疫学
		菊谷 昌浩	疫学、予防医学
		石川ひろの	行動科学、社会疫学
		大脇 和浩	臨床疫学、脳神経外科学
		高橋 謙造	公衆衛生学、国際保健学
		福田 吉治	社会疫学、地域医療、産業保健
		松浦 正明	疫学、生物統計学
		宮田 敏	疫学、生物統計学
		金城 謙太郎	救急医学、地域医療学
		浅山 敬	臨床疫学、公衆衛生学
	准教授	井上まり子	国際保健学
		崎坂香屋子	国政保健学
法医学	教授 野上 誠	法医病理、免疫組織化学	法医学
医学研究科	教授 槇村 浩一	医真菌学、労働衛生学、分子生物学、宇宙環境医学	医真菌学 宇宙環境医学
医療共通 教育研究センター	教授	大胡 恵樹	生命物質化学、生物無機化学、錯体化学、物理化学
		河内 正治	麻酔科学、集中治療医学、感染症学、代謝栄養学
		菊地 弘敏	リウマチ、膠原病、ベーチェット病
	准教授	伊藤 健吾	放射線物理学、放射線化学
		鈴木 章一	分子細胞生物学、免疫学、生化学
生物工学研究センター	教授 大石 昇	分子生体機能学、基礎生物学	分子生体機能学
医真菌研究センター	准教授	山田 剛	医真菌学、分子生物学
		浜本 洋	医真菌学、細菌学
戦略的イノベーション研究センター	教授 月田早智子	細胞生物学、分子生物学、生体システム学、生体バリア学	生化学/臨床医科学
臨床研究センター	教授 矢守 隆夫	レギュラトリサイエンス、分子薬理学	臨床試験学
	准教授 宇野希世子	臨床研究、循環器、動脈硬化	臨床試験学
薬学部	教授 関水 和久	医真菌学、細菌学	医真菌学

<臨床系>

所属	教員	専門分野	担当主科目
内科学	板橋	教授 沖永 寛子	内分泌学、糖尿病学
			内分泌・代謝学・糖尿病学
		石川 敏夫	内分泌学
			内分泌・代謝学・糖尿病学
		上妻 謙	循環器 冠動脈インターベンション 急性心筋梗塞
			循環器内科学
		河野 肇	リウマチ学、アレルギー学、免疫学
			免疫・代謝学
		柴田 茂	腎臓内科学一般、高血圧、水電解質代謝
			腎臓病学
		関 順彦	腫瘍内科、特に肺癌の検診、画像診断・治療
			臨床腫瘍学
		田中 篤	消化器病学・肝臓病学
			消化器肝臓内科学
		塚本 和久	代謝学(脂質代謝、糖代謝)、動脈硬化
			内分泌・代謝学・糖尿病学、血液内科学
	病院教授	長瀬 洋之	呼吸器内科学、気管支喘息・COPD・間質性肺炎病態、禁煙治療
		藤垣 嘉秀	腎炎・ネフローゼ・慢性腎臓病・慢性腎不全・急性腎不全
		山本 貴嗣	内視鏡(消化器)、消化管運動
		北沢 貴利	感染症の診断と治療、感染制御学
		盛田 幸司	内分泌学、糖尿病学
		渡邊 清高	腫瘍内科学、地域医療学

所 属	教 員		専 門 分 野	担 当 主 科 目
内科学	板橋	准教授	浅岡 良成	消化管 肝臓 肝細胞癌 ラジオ波焼灼療法 分子標的治療
			宇野 健司	糖尿病 脂質異常症 肥満症
			小田島慎也	消化器病学(内視鏡治療)
			田代 晴子	造血器腫瘍、造血細胞移植
			横山 直之	循環器科、画像診断、血管疾患
			渡邊 雄介	循環器内科学
		病院准教授	相磯 光彦	消化器病学、肝臓病学、薬物性肝障害
			松永 直久	感染症学
	溝口	教 授	原 眞純	内分泌代謝学、糖尿病学、動脈硬化、脂質異常症
			佐藤 謙	血液腫瘍
			幸山 正	呼吸器内科学
		病院教授	速水 紀幸	不整脈
			河原崎 宏雄	腎臓内科学一般、高血圧
		准教授	菊池健太郎	肝臓病学、細胞免疫学
			鈴木 伸明	循環器一般、虚血性心疾患、冠動脈インターベンション、心血管内イメージング
			中村 文隆	内科循環器学、カテーテルインターベンション、血管新生療法に関する研究
		教 授	井上 大輔	代謝・糖尿病・内分泌学全般、特に骨・カルシウム代謝
			寺脇 博之	高尿酸血症、急性・慢性腎不全、腎代替療法(血液透析・腹膜透析)、酸化ストレス、臨床疫学
			小尾俊太郎	消化器内科(特に肝細胞癌の治療)、IVR
			山口 正雄	呼吸器、アレルギー学、薬物アレルギー、好塩球・好塩基球・マスト細胞の研究
		病院教授	萩谷 政明	慢性閉塞性肺疾患
			天木 幹博	カテーテルインターベンション・不整脈治療・心臓再同期治療
		准教授	小林 政司	腎臓病学(腎炎・ネフローゼ)、膠原病(特にSLE、血管炎)
			土井 晋平	消化器疾患一般、脾臓・胆嚢・胆管疾患
消化器内科	溝口	准教授	土井 晋平	消化器疾患一般、脾臓・胆嚢・胆管疾患
緩和医療学	板橋	教 授	有賀 悦子	緩和医療学・腫瘍免疫学
神経内科学	板橋	教 授	園生 雅弘	臨床神経学一般、臨床神経生理学、神経筋電気診断学
			小林 俊輔	臨床神経学、高次脳機能障害、パーキンソン病
			齊藤 史明	筋ジストロフィーの分子病態、神経変性疾患、認知症
		准教授	畑中 裕己	臨床神経学一般、臨床神経生理学、神経節電気診断学
	ちば	教 授	作石かおり	神経内科学、神経免疫学
小児科学	板橋	教 授	三牧 正和	小児神経学
			小林 茂俊	免疫・アレルギー学
		病院教授	南谷 幹史	小児内分泌学、特に甲状腺学、骨代謝学の診断と治療
	溝口	教 授	井田 孔明	小児血液・がん
精神神経科学	板橋	教 授	功刀 浩	臨床精神医学・遺伝学・臨床疫学
			栃木 衛	精神科遺伝学・疫学
		病院教授	伊東ゆたか	児童・思春期精神医学
		病院准教授	赤羽 晃寿	リエゾン精神医学、精神疾患の病因研究
皮膚科学	板橋	教 授	多田 弥生	乾癬、膠原病
		准教授	大西 譽光	皮膚腫瘍、免疫組織化学
			鎌田 昌洋	乾癬、自己免疫性水疱症、アトピー性皮膚炎
	ちば	教 授	佐藤 友隆	皮膚真菌症
放射線科学	板橋	教 授	大場 洋	神経放射線診断、小児神経放射線診断
			近藤 浩史	放射線診断学、interventional radiology
		病院教授	神長 達郎	放射線診断学、核医学
			白石憲史郎	放射線腫瘍学
	溝口	教 授	多湖 正夫	放射線腫瘍学、放射線治療
		病院教授	林 高樹	画像診断神経放射線、放射線防護

所 属		教 員		専 門 分 野		担 当 主 科 目	
外科学	板橋	教 授	川村 雅文	呼吸器外科学、肺癌、縦隔腫瘍、気胸及び嚢胞性肺疾患		外科学総合 呼吸器外科学 呼吸器・アレルギー学 小児外科学	
			坂尾 幸則	呼吸器外科学、臨床腫瘍学、肺癌、胸部悪性腫瘍、胸膜疾患、胸部画像診断学		外科学総合 呼吸器外科学 呼吸器・アレルギー学	
			佐野 圭二	肝胆膵領域疾患の外科治療・化学療法・腹部超音波検査、肝移植治療		外科学総合 肝胆膵・移植外科学 外科・手技	
			神野 浩光	乳腺外科学、外科腫瘍学		外科学総合 乳腺腫瘍学	
			橋口陽二郎	消化器外科学、外科代謝栄養学		外科学総合 下部消化管外科学	
			深川 剛生	上部消化管外科学、外科腫瘍学、担当主科目：外科学総合、上部消化管外科学		外科学総合 上部消化管外科学 臨床試験学	
			福島 亮治	上部消化管の外科治療、化学療法、内視鏡治療、外科代謝栄養、外科侵襲学		上部消化管外科学	
			三澤 健之	肝・胆・膵の外科全般、内視鏡(腹腔鏡)手術		外科学総合 肝胆膵・移植外科学 外科・手技	
		病院教授	松田 圭二	大腸癌、炎症性腸疾患の治療		外科学総合 下部消化管外科学 臨床検査医学	
			准教授	齋藤 雄一	呼吸器外科、炎症性肺疾患の治療		呼吸器外科学
		野澤慶次郎		大腸肛門病学の診断と治療		外科学総合 下部消化管外科学	
	溝口	教 授	小林 宏寿	消化器外科一般、特に大腸・肛門外科、内視鏡手術をはじめとする低侵襲外科治療		内視鏡外科学	
			松谷 哲行	呼吸器外科学、術後疼痛、生体材料		内視鏡外科学	
			谷口 桂三	消化器外科(特に内視鏡外科：食道/胃/大腸)		内視鏡外科学	
		病院教授	三浦 文彦	消化器外科、肝胆膵外科		肝胆膵・移植外科学 外科・手技	
		ちば	教 授	幸田 圭史	小腸・大腸・肛門疾患の診断と治療		下部消化管外科学
	准教授		首藤 潔彦	食道癌、胃癌、消化器画像診断、腹部IVR		上部消化管外科学	
心臓血管外科学	板橋	教 授	下川 智樹	虚血性心疾患、弁膜症外科、大動脈外科		移植免疫学、心臓血管外科学、東洋医学	
			今水流智浩	成人心臓血管外科学全般(冠動脈・弁・大動脈)、血管外科(末梢血管、静脈) 大動脈ステントグラフト		心臓血管外科学	
	ちば	准教授	宮城 直人	成人心臓血管外科		心臓血管外科学	
産婦人科学	板橋	教 授	長阪 一憲	婦人科腫瘍、細胞診断学、婦人科内視鏡		産婦人科学	
			梁 栄治	超音波医学、周産期医学、ME		産婦人科学	
		病院教授	木戸浩一郎	周産期医学、超音波医学		産婦人科学	
			笹森 幸文	周産期医学、妊娠高血圧症候群		産婦人科学	
	溝口	教 授	西井 修	生殖内分泌学、内視鏡下手術、不妊症		産婦人科学	
		准教授	土谷 聡	婦人科腫瘍学、子宮鏡手術、性感染症		産婦人科学	
			藤本 晃久	生殖内分泌学、内視鏡下手術、不妊症		産婦人科学	
	ちば	教 授	梁 善光	婦人科腫瘍、婦人科内視鏡手術、生殖内分泌学		産婦人科学	
		病院教授	五十嵐敏雄	子宮内膜症、生殖内分泌学、不妊症		産婦人科学	
		准教授	足立 克之	婦人科悪性腫瘍		産婦人科学	
脳神経外科学	板橋	教 授	辛 正廣	間脳下垂体腫瘍(下垂体腫瘍、頭蓋咽頭腫)、頭蓋底腫瘍(髄膜腫、脊索腫、神経鞘腫)、小児脳神経疾患全般		脳神経外科学	
			庄島 正明	脳動脈瘤、脳動脈静脈奇形、硬膜動脈静脈瘻、頸動脈狭窄症、脳動脈狭窄症、急性期脳梗塞に対する脳血管内治療と三次元画像診断、3Dプリンティング		脳神経外科学	
		准教授	宇野 健志	脳血管障害、血管内治療、もやもや病、三叉神経痛、顔面けいれん、頭蓋底腫瘍		脳神経外科学	
整形外科	板橋	教 授	河野 博隆	骨軟部腫瘍		運動器再建・再生学	
			中川 匠	整形外科、膝関節外科、人工膝関節、スポーツ整形外科、ナビゲーション手術		運動器再建・再生学	
			渡部 欣忍	外傷後合併症(骨癒合不全、変形癒合、骨髄炎、関節拘縮)、骨延長術		運動器再建・再生学	
		病院教授	北川 知明	脊椎脊髄病外科		運動器再建・再生学	
		准教授	今西 淳悟	骨・軟部腫瘍、ナビゲーション手術、処理骨などの腫瘍切除後機能再建		運動器再建・再生学	
			増田 裕也	膝関節外科		運動器再建・再生学	
			松田 健太	股関節外科		運動器再建・再生学	
		病院准教授					
	溝口	教 授	安井 哲郎	足の外科、関節リウマチ		運動器再建・再生学	
	ちば	教 授	村田 泰章	脊椎脊髄病外科		運動器再建・再生学	
形成・口腔 顎顔面外科学	板橋	教 授	小室 裕造	頭蓋顎顔面外科、眼瞼下垂、美容外科		形成・口腔顎顔面外科学	
		病院教授	市ノ川義美	口腔・顎・顔面外科学、顎矯正手術、骨移植、		形成・口腔顎顔面外科学	
			大河内真之	形成外科、再建外科、顔面神経麻痺		形成・口腔顎顔面外科学	
		病院准教授	堂後 京子	形成外科一般 乳房再建 褥瘡・難治性潰瘍 リンパ浮腫 再生医学		形成・口腔顎顔面外科学	
	ちば	教 授	福積 聡	形成外科(皮弁、四肢の血管解剖)		形成・口腔顎顔面外科学	
リハビリテーション医学	板橋	教 授	緒方 直史	リハビリテーション医学全般、整形外科、脊髄損傷、骨代謝学		リハビリテーション医学	
		准教授	中原 康雄	リハビリテーション医学、脳卒中、脊髄損傷、義肢装具、運動器障害		リハビリテーション医学	
	溝口	教 授	原 元彦	リハビリテーション医学(神経内科領域)、臨床神経学		リハビリテーション医学	
	ちば	教 授	田中 尚文	リハビリテーション医学、認知症		リハビリテーション医学	

所 属		教 員		専 門 分 野		担 当 主 科 目	
耳鼻咽喉科学	板橋	教 授	伊藤 健	聴覚医学・耳科学		耳鼻咽喉科学	
		病院准教授	持木 将人	頭頸部腫瘍		耳鼻咽喉科学	
	ちば	教 授	鈴木 雅明	耳科学、鼻科学、睡眠学		耳鼻咽喉科学	
眼科学	板橋	教 授	溝田 淳	網膜・視神経疾患の診断と治療、眼内腫瘍の診断と治療、視覚電気生理学		視覚病態学	
		准教授	井上 裕治	黄斑疾患、網膜疾患		視覚病態学	
			三村 達哉	角膜・外眼部、ぶどう膜、黄斑・眼底疾患		視覚病態学	
		病院准教授	渡邊恵美子	眼電気生理、眼底疾患		視覚病態学	
泌尿器科学	板橋	教 授	中川 徹	泌尿器がん、ロボット手術、がん薬物療法		泌尿器外科学	
		病院准教授	山田 幸央	泌尿器がん、間質性膀胱炎、ロボット手術、腹腔鏡手術		泌尿器外科学	
			金子 智之	泌尿器がん、ロボット支援手術、腹腔鏡手術、尿路結石症、排尿障害		泌尿器外科学	
			木村 将貴	男性不妊症、性機能障害、男性更年期、マイクロサージャリ		泌尿器外科学	
	溝口	教 授	石坂 和博	男子生殖内分泌、泌尿器腫瘍一般、低侵襲手術		泌尿器外科学	
	ちば	教 授	納谷 幸男	泌尿器科腫瘍、尿路結石症、医用工学、腹腔鏡手術		泌尿器外科学	
		准教授	小島 聡子	前立腺癌をはじめとした泌尿器腫瘍学ホルモン内分疾学		泌尿器外科学	
	麻酔科学	板橋	教 授	澤村 成史	麻酔科学(とくに神経科学分野)		麻酔科学
澤 智博				バイオメディカルインフォマテクス		麻酔科学	
中田 善規				麻酔学一般、救急医学医療経済、経営学		麻酔科学 公衆衛生医学	
原 芳樹				麻酔科学全般		麻酔科学	
病院教授			關山 裕詩	疼痛管理 ペインクリニック 漢方		麻酔科学	
准教授			高田 眞二	麻酔科学一般(特に産科麻酔分野)、医療安全学、医学教育		麻酔科学	
病院准教授			柿沼 玲史	心臓外科麻酔、末梢神経ブロック		麻酔科学	
			原島 敏也	麻酔一般		麻酔科学	
		安田 篤史	麻酔科学、心臓麻酔・術後管理、周術期経食道心エコー、集中治療		麻酔科学		
溝口		教 授	丸山 晃一	臨床麻酔、挿管困難症の気道管理、救急蘇生法		麻酔科学	
		准教授	平林 剛	臨床麻酔		麻酔科学	
ちば		教 授	田垣内祐吾	麻酔		麻酔科学	
集中治療部	板橋	教 授	張 京浩	麻酔科学・集中治療医学・外科侵襲学		麻酔科学	
ペインセンター	ちば	教 授	青江 知彦	疼痛科学、麻酔学		疼痛科学	
臨床検査医学	板橋	教 授	古川 泰司	循環器病学、不整脈、電気生理学、睡眠病態学		臨床検査医学	
救急医学	板橋	教 授	森村 尚登	救急医学、災害医学、集中治療医学、外傷学、マスギャザリング医学		救急災害医学	
			坂本 哲也	救急医学、集中治療医学、頭部外傷、心肺脳蘇生、薬毒物中毒		救急災害医学	
			三宅 康史	救急医学、集中治療医学、医学教育、病院前救急、環境障害		救急災害医学	
			金子 一郎	心肺蘇生、外傷、集中治療		救急災害医学	
			鈴木 卓	整形外科領域の骨折・外傷		救急災害医学	
		病院教授	黒住 健人	外傷、災害、整形外科		救急災害医学	
		准教授	池田 弘人	外傷・熱傷・外科感染症		救急災害医学	
		病院准教授	伊藤 香	外科、集中治療、Acute Care Surgery		救急災害医学	
救急医学(ER)		病院教授	佐川 俊世	不整脈、心不全		救急災害医学	
救急集中救命救急ER	ちば	教 授	志賀 英敏	集中治療、血液浄化法		集中治療医学	
			岡田 昌彦	救急医学		集中治療医学	
			山下 雅知	救急医学(ショックの病態生理、臨床中毒学、救急医学教育)		集中治療医学	
病院病理部	板橋	教 授	齋藤 光次	人体病理、肝・胆・膵の病理		人体病理学・病理診断学	
			笹島 ゆう子	婦人科病理(腫瘍)、乳腺病理(腫瘍)		人体病理学・病理診断学	
	溝口	病院教授	高橋 美紀子	病理診断学、細胞診断学、呼吸器病理学		人体病理学・病理診断学	
	ちば	教 授	山崎 一人	人体病理学、腫瘍学		人体病理学・病理診断学	
		准教授	富居 一範	免疫病理、泌尿器病理、骨軟部病理、血液病理		人体病理学・病理診断学	
地域医療センター	ちば	教 授	井上 和男	地域医療、疫学、産業保健、公衆衛生		地域医療学	

VII. 履修の手引き

履修方法については入学年度により異なりますので注意してください。

- 2022・2021 年度生（1・2 年生）・・・ P14～17
- 2020・2019 年度生（3・4 年生）・・・・・・・・ P18～21
- 共通事項・・・・・・・・ P22・23

Ⅶ. 履修の手引き

1・2 年生

(1) 単位

履修科目には以下のとおり「主科目」、「副科目」、「必修科目Ⅰ」、「必修科目Ⅱ」「共通科目」の 5 種類があります。

各科目において、1 単位の時間数は講義・演習は原則 15 時間、ベッドサイド教育・実験・実習を含む研究では原則 45 時間です。

※ 1 単位は授業前後の主体的な学修を含めて 45 時間（講義の場合は授業 15 時間、予習復習に 30 時間）の学修を要します。

(2) 科目

① 主科目（4 単位／年）

専門科目から主科目として必ず 1 つ選択し、同科目分野のⅠ～Ⅲ（各 4 単位）、合計 12 単位を修得します。指導教員が所属する領域について学習する科目であり、高度な専門性を培うための教育が行われます。

履修内容は、講義・演習・実習・ベッドサイド教育を指導教員の指導のもとに行います（ただし、ベッドサイド教育は臨床系のみ）。

また、主科目毎に特定の「共通科目」ないし「副科目」を関連科目として推奨していますので参照してください。

なお、主科目に変更が生じた場合は、指導教授と相談の上、事務部にて諸手続きを行ってください。

主科目については、講義等の連絡を事務部から行うことはありません。各自で教員に確認をしてください。

② 副科目（4 単位／年）

主科目以外の専門科目を副科目として選択することができます。副科目は、専門性を補完するために副次的に履修する科目であり、指導教授と相談の上で、教育・研究上必要と判断される場合、履修するものとします。

履修内容は、主科目に準じており、講義・演習・実習・ベッドサイド教育となります。履修期間は 3 ヶ月以上 1 年以内です。また、一度修得した科目を再度履修することはできません。

なお、自身が選択している主科目と同一の副科目は履修できません。履修の際は必ず自身の指導教授（教員）および副科目の担当教員とよく相談をしてください。

副科目については、講義等の連絡を事務部から行うことはありません。各自で教員に確認をしてください。

③ 必修科目Ⅰ

必修科目とは、研究および論文作成・プレゼンテーションをするにあたり必要な知識を習得するために設定されています。修了年限までに必ず修得することが必要な科目です。必修科目は年度をまたいでの履修はできませんので、必ず当該年度に履修のこと。ただし、「医学研究特論」のみ 4 年間を通じての履修となります。

④ 必修科目Ⅱ（特殊研究：8 単位）

学位論文の作成に関連する研究活動を単位として認定します。主科目指導教員のもとで研究課題を見出し、その研究に取り組み、結果を出し、学位論文作成を行います。

なお、4 年間における基本的な指導計画は下記のとおり、指導教員による継続的な指導を受けます。学年毎に単位数を設定せず、最終年度に 8 単位を付与します。また、毎年度末に進捗状況を所定の用紙にて提出してください。

（各年次の目安）

- ・1 年次：研究計画を策定し、研究計画を具現化する。
- ・2 年次：研究計画に基づいてデータ収集・分析し、その結果を踏まえて研究計画を見直す。
また、国内外の学会、研究会での研究発表や学術雑誌への投稿を奨励する。
- ・3 年次：研究に関するデータ収集・分析を行い、データをまとめる。
引き続き、国内外の学会、研究会での研究発表や学術雑誌への投稿を奨励する。
- ・4 年次：学位論文を作成する。学位論文中間発表会で発表・講評・指導の機会を得る。中間発表会を経て、学位論文を最終的にまとめ上げる。

⑤ 共通科目

基本的に主科目に関連した特論科目を共通科目として開講しています。共通科目は、主科目の領域に関わらず様々な分野に視野を広げるため自由に選択できます。基本的に講義形式の授業形態となります。

講義は、要項に記載のとおり、4 月から順次行われます。科目により隔年開講の場合がありますので、履修計画は十分に行ってください。

共通科目の履修登録数は原則 2 科目までとします。ただし、成績優秀者には 2 科目以上の履修登録を認めることがあります。

なお、共通科目は年度をまたいでの履修はできません。必ず当該年度に履修のこと。また、一度修得した科目を再度履修することはできません。

（3）修了要件

修了年限内（通常は 4 年、特に優れた研究業績を上げた場合は 3 年）に必修科目（Ⅰ、Ⅱ）、専門科目、共通科目あわせて 30 単位以上を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

修了要件の詳細については、下記の通りである。

- (1)必修科目Ⅰの 4 科目(各 1 単位、合計 4 単位)を修得すること。
- (2)主科目として専門科目から 1 科目選択し、同科目のⅠ～Ⅲ(各 4 単位)、合計 12 単位を修得すること。
- (3)副科目(主科目以外の専門科目)、共通科目いずれも 1 科目以上、合計 6 単位以上を修得すること。
- (4)必修科目Ⅱ(特殊研究) 8 単位を修得すること。

(5)上記の(1)～(4)の合計 30 単位以上を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

上記の修了要件を表にすると次のとおりとなる。

(修了要件)

科目		必修・選択	修了要件(必要な単位数)
必修科目Ⅰ		必修	4 単位
専門科目	主科目	選択必修	12 単位
	副科目(主科目以外)	選択	副科目、共通科目いずれも 1 科目以上、合計 6 単位以上
共通科目		選択	
必修科目Ⅱ	特殊研究	必修	8 単位
合 計			30 単位以上

なお、併せて教育的配慮から下記の履修制限を設ける。

(1)主科目および副科目併せて、1 学年に 8 単位を超えて履修することはできない。

(2)副科目は、4 年間を通じて複数科目を選択することができるが、同一科目分野(Ⅰ～Ⅲ)から 2 科目以上履修することはできない。

例)「細胞組織学Ⅰ」と「細胞組織学Ⅱ」の履修は不可

(3) 共通科目の履修登録数は原則 2 科目までとする。ただし、成績優秀者には、2 科目以上の履修登録を認め、年間上限を 25 単位までとする。

(4) 履修モデル

本研究科の目的は、「高い研究能力を持つ医学系研究者の養成」と「優れた研究・診療能力を備えた医療系人材の養成」です。すなわち、研究者の養成と高度の専門的職業人の養成です。それぞれの人材養成の観点から、履修モデルを以下に示しますので参考にしてください。なお、社会人枠の学生や学外での研究指導を受ける学生は、履修に際しては指導教授（教員）とよく相談をしてください。

【例 1】 研究者の養成の例（構造機能医学分野の「細胞組織学」を選択する学生の履修モデル）

	必修科目Ⅰ		専門科目		共通科目	必修科目Ⅱ
			主科目	副科目		
1 年	研究倫理 (1 単位)	↑ 医学研究特論 (1 単位) ↓	細胞組織学Ⅰ (4 単位)		医療倫理特論 (1 単位)	↑ 特殊研究 (8 単位) ↓
2 年	臨床疫学 (1 単位)		細胞組織学Ⅱ (4 単位)	人体病理学・病理 診断学Ⅰ (4 単位)		
3 年			細胞組織学Ⅲ (4 単位)		感染症学特論 (1 単位)	
4 年						
合計	4 単位		12 単位	4 単位	2 単位	8 単位
	30 単位					

【例 2】 高度の専門的職業人の養成の例 ①

(器官系統病態学分野の「消化管内科学」を選択する学生の履修モデル)

	必修科目Ⅰ		専門科目		共通科目	必修科目Ⅱ
			主科目	副科目		
1 年	研究倫理 (1 単位) 臨床疫学 (1 単位)	↑ 医学研究特論 (1 単位) ↓	消化管内科学Ⅰ (4 単位)		消化器疾患特論 (1 単位)	↑ 特殊研究 (8 単位) ↓
2 年	臨床統計学 (1 単位)		消化管内科学Ⅱ (4 単位)	内科学総合Ⅰ (4 単位)		
3 年			消化管内科学Ⅲ (4 単位)		救急医学特論 (1 単位)	
4 年						
合計	4 単位		12 単位	4 単位	2 単位	8 単位
	30 単位					

【例 3】 高度の専門的職業人の養成の例 ②

(がん専門医養成コースの「緩和医療専門医養成」を選択した学生の履修モデル)

	必修科目Ⅰ		専門科目		共通科目	必修科目Ⅱ
			主科目	副科目		
1 年	研究倫理 (1 単位) 臨床疫学 (1 単位)	↑ 医学研究特論 (1 単位) ↓	緩和医療学Ⅰ (4 単位)		腫瘍内科学特論 (1 単位)	↑ 特殊研究 (8 単位) ↓
2 年	臨床統計学 (1 単位)		緩和医療学Ⅱ (4 単位)	臨床腫瘍学Ⅰ (4 単位)		
3 年			緩和医療学Ⅲ (4 単位)		腫瘍治療学特論(1 単位)	
4 年						
合計	4 単位		12 単位	4 単位	2 単位	8 単位
	30 単位					

Ⅶ. 履修の手引き

3・4年生

(1) 単位

履修科目には以下のとおり「主科目」、「副科目」、「必修科目Ⅰ」、「必修科目Ⅱ」「共通科目」の5種類があります。

各科目において、1単位の時間数は講義・演習は原則15時間、ベッドサイド教育・実験・実習を含む研究では原則45時間です。

※1単位は授業前後の主体的な学修を含めて45時間（講義の場合は授業15時間、予習復習に30時間）の学修を要します。

(2) 科目

① 主科目（4単位／年）

専門科目から主科目として必ず1つ選択し、同科目分野のⅠ～Ⅲ（各4単位）、合計12単位を修得します。指導教員が所属する領域について学習する科目であり、高度な専門性を培うための教育が行われます。

履修内容は、講義・演習・実習・ベッドサイド教育を指導教員の指導のもとに行います（ただし、ベッドサイド教育は臨床系のみ）。

また、主科目毎に特定の「共通科目」ないし「副科目」を関連科目として推奨していますので参照してください。

なお、主科目に変更が生じた場合は、指導教授と相談の上、事務部にて諸手続きを行ってください。

主科目については、講義等の連絡を事務部から行うことはありません。各自で教員に確認をしてください。

② 副科目（4単位／年）

主科目以外の専門科目を副科目として選択することができます。副科目は、専門性を補完するために副次的に履修する科目であり、指導教授と相談の上で、教育・研究上必要と判断される場合、履修するものとします。

履修内容は、主科目に準じており、講義・演習・実習・ベッドサイド教育となります。履修期間は3ヶ月以上1年以内です。また、一度修得した科目を再度履修することはできません。

なお、自身が選択している主科目と同一の副科目は履修ができません。履修の際は必ず自身の指導教授（教員）および副科目の担当教員とよく相談をしてください。

副科目については、講義等の連絡を事務部から行うことはありません。各自で教員に確認をしてください。

③ 必修科目Ⅰ

必修科目とは、研究および論文作成・プレゼンテーションをするにあたり必要な知識を習得するために設定されています。修了年限までに必ず修得することが必要な科目です。必修科目は年度をまたいでの履修はできませんので、必ず当該年度に履修のこと。ただし、「医学研究特論」のみ4年間を通じての履修となります。

④ 必修科目Ⅱ（特殊研究：8 単位）

学位論文の作成に関連する研究活動を単位として認定します。主科目指導教員のもとで研究課題を見出し、その研究に取り組み、結果を出し、学位論文作成を行います。

なお、4 年間における基本的な指導計画は下記のとおり、指導教員による継続的な指導を受けます。学年毎に単位数を設定せず、最終年度に 8 単位を付与します。また、毎年度末に進捗状況を所定の用紙にて提出してください。

（各年次の目安）

- ・1 年次：研究計画を策定し、研究計画を具現化する。
- ・2 年次：研究計画に基づいてデータ収集・分析し、その結果を踏まえて研究計画を見直す。
また、国内外の学会、研究会での研究発表や学術雑誌への投稿を奨励する。
- ・3 年次：研究に関するデータ収集・分析を行い、データをまとめる。
引き続き、国内外の学会、研究会での研究発表や学術雑誌への投稿を奨励する。
- ・4 年次：学位論文を作成する。学位論文中間発表会で発表・講評・指導の機会を得る。中間発表会を経て、学位論文を最終的にまとめ上げる。

⑤ 共通科目

基本的に主科目に関連した特論科目を共通科目として開講しています。共通科目は、主科目の領域に関わらず様々な分野に視野を広げるため自由に選択できます。基本的に講義形式の授業形態となります。

講義は、要項に記載のとおり、4 月から順次行われます。科目により隔年開講の場合がありますので、履修計画は十分に行ってください。

共通科目の履修登録数は原則 2 科目までとします。ただし、成績優秀者には 2 科目以上の履修登録を認めることがあります。

なお、共通科目は年度をまたいでの履修はできません。必ず当該年度に履修のこと。また、一度修得した科目を再度履修することはできません。

（3）修了要件

修了年限内（通常は 4 年、特に優れた研究業績を上げた場合は 3 年）に必修科目（Ⅰ、Ⅱ）、専門科目、共通科目あわせて 30 単位以上を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

修了要件の詳細については、下記の通りである。

- (1) 必修科目Ⅰの 4 科目(各 1 単位、合計 4 単位)を修得すること。
- (2) 主科目として専門科目から 1 科目選択し、同科目のⅠ～Ⅲ(各 4 単位)、合計 12 単位を修得すること。
- (3) 副科目(主科目以外の専門科目)および共通科目の中から合計 6 単位以上を修得すること。
- (4) 必修科目Ⅱ(特殊研究) 8 単位を修得すること。
- (5) 上記(1)～(4)の合計 30 単位以上を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

修了要件を表にすると次のとおりとなる。

(修了要件)

科目		必修・選択	修了要件(必要な単位数)
必修科目Ⅰ		必修	4 単位
専門科目	主科目	選択必修	12 単位
	副科目(主科目以外)	選択	副科目、共通科目あわせて 6 単位以上
共通科目		選択	
必修科目Ⅱ	特殊研究	必修	8 単位
合 計			30 単位以上

なお、併せて教育的配慮から下記の履修制限を設ける。

- (1)主科目および副科目併せて、1 学年に 8 単位を超えて履修することはできない。
- (2)副科目は、4 年間を通じて複数科目を選択することができるが、同一科目分野(Ⅰ～Ⅲ)から 2 科目以上履修することはできない。
例)「細胞組織学Ⅰ」と「細胞組織学Ⅱ」の履修は不可
- (3) 共通科目の履修登録数は原則 2 科目までとする。ただし、成績優秀者には、2 科目以上の履修登録を認め、年間上限を 25 単位までとする。

(4) 履修モデル

本研究科の目的は、「高い研究能力を持つ医学系研究者の養成」と「優れた研究・診療能力を備えた医療系人材の養成」です。すなわち、研究者の養成と高度の専門的職業人の養成です。それぞれの人材養成の観点から、履修モデルを以下に示しますので参考にしてください。なお、社会人枠の学生や学外での研究指導を受ける学生は、履修に際しては指導教授（教員）とよく相談をしてください。

【例 1】 研究者の養成の例（構造機能医学分野の「細胞組織学」を選択する学生の履修モデル）

	必修科目Ⅰ		専門科目		共通科目	必修科目Ⅱ
			主科目	副科目		
1 年	実験医学序論 (1 単位) 臨床疫学 (1 単位)	↑ 医学研究特論 (1 単位) ↓	細胞組織学Ⅰ (4 単位)		医療倫理特論 (1 単位)	↑ 特殊研究 (8 単位) ↓
2 年	臨床統計学 (1 単位)		細胞組織学Ⅱ (4 単位)	人体病理学・病理診断学Ⅰ (4 単位)		
3 年			細胞組織学Ⅲ (4 単位)		感染症学特論 (1 単位)	
4 年						
合計	4 単位		12 単位	4 単位	2 単位	8 単位
	30 単位					

【例 2】 高度の専門的職業人の養成の例 ①

(器官系統病態学分野の「消化管内科学」を選択する学生の履修モデル)

	必修科目Ⅰ		専門科目		共通科目	必修科目Ⅱ
			主科目	副科目		
1 年	実験医学序論 (1 単位) 臨床疫学 (1 単位)	医学研究特論 (1 単位)	消化管内科学Ⅰ (4 単位)		消化器疾患特論 (1 単位)	特殊研究 (8 単位)
2 年	臨床統計学 (1 単位)		消化管内科学Ⅱ (4 単位)	内科学総合Ⅰ (4 単位)		
3 年			消化管内科学Ⅲ (4 単位)		救急医学特論 (1 単位)	
4 年						
合計	4 単位		12 単位	4 単位	2 単位	8 単位
	30 単位					

【例 3】 高度の専門的職業人の養成の例 ②

(がん専門医養成コースの「緩和医療専門医養成」を選択した学生の履修モデル)

	必修科目Ⅰ		専門科目		共通科目	必修科目Ⅱ
			主科目	副科目		
1 年	実験医学序論 (1 単位) 臨床疫学 (1 単位)	医学研究特論 (1 単位)	緩和医療学Ⅰ (4 単位)		腫瘍内科学特論 (1 単位)	特殊研究 (8 単位)
2 年	臨床統計学 (1 単位)		緩和医療学Ⅱ (4 単位)	臨床腫瘍学Ⅰ (4 単位)		
3 年			緩和医療学Ⅲ (4 単位)		腫瘍治療学特論(1 単位)	
4 年						
合計	4 単位		12 単位	4 単位	2 単位	8 単位
	30 単位					

(5) 履修登録

<履修登録>

履修登録は事務部に届出が必要です。届出がない場合は履修とみなされませんので、必ず期限内 **(4月22日(金)まで)** に対応してください。

なお、履修登録の際は指導教授（教員）とよく話合った上で、年間の履修計画（＝単位取得計画）を立ててください。

※ やむを得ない事情のみ履修科目の変更を認めますので事務部に相談をしてください。

※ なお、履修登録の上限は年間 25 単位までとなります。ただし、成績優秀者には、年間 25 単位を超えた履修を認めることがあります。

【提出先】 帝京大学 板橋キャンパス事務部（大学棟本館2階）

教務課医学部担当（大学院医学研究科）

電話03-3964-3294（直通） 内線（42122）

(6) 講義

本研究科は、大学院設置基準第14条適用による教育方法の特例を採用し、夜間授業（18時以降）や土曜日の授業を行い、社会人学生が勤務終了後からでも授業が受けられるように配慮をしています。

主科目・副科目については、指導教員の指示のもと履修をしてください。

必修科目、共通科目の講義実施日については、シラバスを確認してください。講義日程の変更・追加の連絡等がある場合、登録されているメールアドレスに連絡します。

講義を欠席する場合は、その講義の担当教員に必ず連絡を入れて下さい。教員と連絡がとれない場合に限り、事務部（教務課医学部担当：03-3964-3294 内線 42122）に連絡を入れて下さい。

<ビデオ視聴>

ちば総合医療センターおよび附属溝口病院に所属する大学院生については、大学院学則19条第2項により、必修科目と共通科目の履修はビデオを視聴してレポートを提出することにより単位認定を行っております。なお、板橋所属の大学院生については講義の出席が必須となります。

・視聴方法について

①各病院にてビデオ視聴する日時・場所等を決め放映します。日程は後日に連絡。

②個人への貸し出しは原則認めません。

③聴講時は担当教員がおりますので、質疑応答は担当教員まで。

④1科目の講義につき、最低1回は板橋で実施される講義に出席すること。

⑤演習や実験を必要とする時限については原則、板橋での受講とする。

(7) オープンカリキュラム制度

板橋キャンパスの各研究科で開講する科目の一部を履修できるオープンカリキュラム制度があります。

詳細はV-1「オープンカリキュラム制度」のページをご確認ください。

これらの科目は選択自由科目として単位認定されます。

ただし、公衆衛生学研究科で開講されている特別講義「社会行動科学」「保健政策・医療管理学」「産業環境保健学」の3科目については共通科目とみなし修了要件に含まれません。

(8) 成績

①評価方法について

各科目のページにおいて、評価方法が記載されています。

②評価基準については以下のとおりです。

評点	評価	判定
90～100 点	S	合格
80～89 点	A	
70～79 点	B	
60～69 点	C	
認定	N	
0 ～59 点	D	不合格

(8) GPA 制度

GPA (Grade Point Average)制度とは、学修の成果を客観的な数値で評価するものです。この制度は、米欧の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しています。

(GPA の算出方法)

$$4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}$$

総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む）

※GPA スコアは 2.5 以上を確保することが望ましく、1.0 以下の者には退学勧告をする場合があります。

(9) 成績評価に対する質問・異議申出

- ①成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
- ②成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
- ③成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の 2 週間以内まで受付ける。

Ⅷ. 学位授与

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出してその審査及び試験に合格したものに「博士（医学）」の学位を授与します。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとします。

Ⅸ. 学位申請

第4学年次以降から随時受付いたします。学位申請書類を全て揃った状態で事務部大学院担当に提出してください。なお、最終締切りは **11月11日(金)** までとなります。
以降の申請については、単位修得満期退学後の学位授与となります。

なお、特にすぐれた研究業績をあげた大学院生は在学期間3年間で学位申請をすることができます。希望する者は別途申請が必要となりますので10月7日までに必ず事務部まで問い合わせ、詳細を確認してください。

大学院を単位修得満期退学（在学中に必須の単位は取得できたが、学位申請ができなかった者）した者は、随時申請書類を提出でき、満期退学後 3年以内 に研究科委員会で申請受理される必要があります。

※満期退学後3年目に申請する際は、遅くとも2月初旬までに申請書類をすべて揃えて提出のこと。

学位申請においては、学位論文（1編）と参考論文（1編）が必要です。

学位論文は掲載誌において査読がなされた論文で、学位申請者が筆頭著者である原著論文とします。

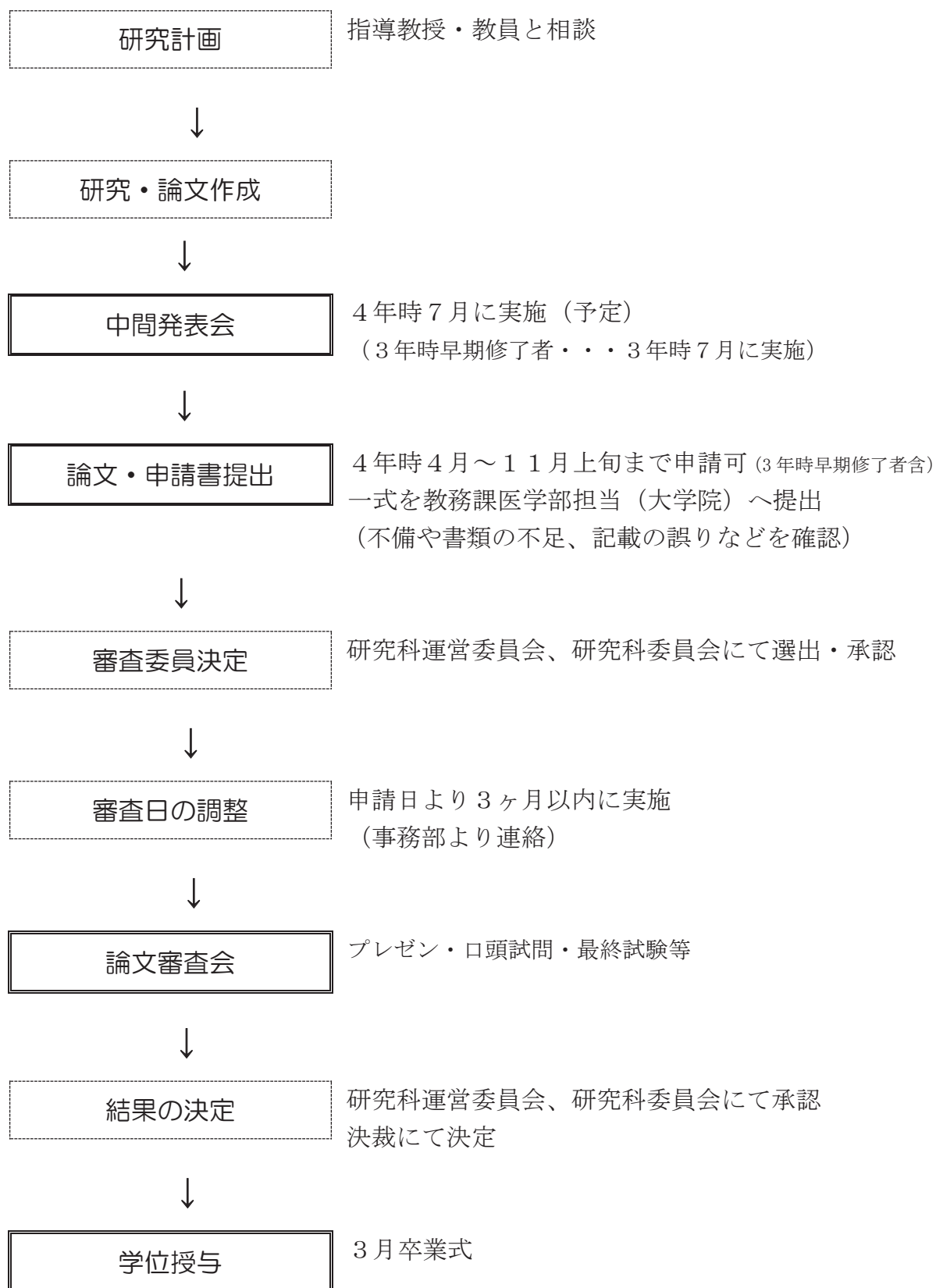
学位論文は単著・共著ともに認めますが、共著の場合には、(1)共著者は医学雑誌編集者国際委員会の定める論文著者の基準を満たすこと(2)学位申請者の指導教授が、共著者として含まれていることが条件となります。なお、学位論文が和文の場合、参考論文は英文論文、ないし、学位申請者が筆頭著者である和文論文であることとします。

詳細は学位申請の手引きを参照してください。

以下の医学研究科ホームページ（学内専用）より、詳しい内容が確認できます。

http://www.med.teikyo-u.ac.jp/ita_grad_top.html

◆学位申請から学位授与までの流れ



X. その他

(1) 休学について

疾病その他やむを得ない事由のため休学しようとする者は、指導教授に相談の上、その事由を証明する書類を添えて、所定の用紙にて事務部教務課（大学院担当）へ届け出てください。

1. 休学は事情により認める。
2. 休学の期間は休学願が提出された学年末までの1年以内とする。ただし、やむを得ない事由がある場合は、さらに1年以内に限り延長を認めることがある。
3. 休学できる期間は、通算して2年を限度とする。
4. 休学期間は、在学期間に算入しない。
5. 休学事由が解消され、復学しようとする者は、その事由を証明する書類を添えて、所定の復学願を提出して許可を得るものとする。

なお、在学期間は8年を超えることができません。

(2) 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は5月末日まで、後期は10月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。ただし、4月末日までに休学願を提出した者は当該年度の前期分・後期分を、10月末日までに休学願を提出した者は当該年度の後期分を各々半額とする。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。

(3) オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられています。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修、学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいいます。相談時間については、別途連絡します。

なお、該当する時間帯であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合があります。

(4) 事務取扱時間

【担当部署】

帝京大学 板橋キャンパス事務部（大学棟本館 2 階）

教務課医学部担当（大学院医学研究科）

電話03-3964-3294（直通） 内線（42122）

【受付時間】

平 日： 8：45 ～ 16：45

土曜日： 8：45 ～ 12：00

※祝日、創立記念日、年末年始（12/29～1/3）、
入学試験、オープンキャンパス等の学校行事を除く

XI. 時間割表（必修科目・共通科目）

（平日）

1 時限	9：00 ～ 10：30
2 時限	10：45 ～ 12：15
3 時限	13：05 ～ 14：35
4 時限	14：50 ～ 16：20
5 時限	16：35 ～ 18：05
6 時限	18：20 ～ 19：50
7 時限	20：05 ～ 21：35

（土曜日）

1 時限	
2 時限	
3 時限	13：30 ～ 15：00
4 時限	15：10 ～ 16：40
5 時限	16：50 ～ 18：20
6 時限	
7 時限	

- ・ 医学研究科では平日と土曜日の時間割が異なりますので注意してください。
- ・ 科目によっては上記時間と異なる場合がありますので、必ずシラバスで詳細を確認してください。

